

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495000521	事業の開始年月日	平成28年12月1日
		指定年月日	平成28年12月1日
法人名	株式会社ケア		
事業所名	グループホームみよの		
所在地	(210-0821) 神奈川県川崎市川崎区殿町2丁目14-11		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和8年1月25日	評価結果 市町村受理日	令和8年5月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の理念他 2階「できなくてもいいんだよ出来ることをさがそうよ」3階「明るく・楽しく・元気よく」を各フロアの理念に掲げ笑顔あふれる施設を目指しています。入居者の思いを少しでも実現に近づけるよう努めております。大家族で暮らしたいという考え方のもとで個人の能力を生活に生かし個人にあった生活が出来るように努めています。「出来ること」を常に探します。食器拭き、洗濯物干し、たたみ、掃除等の家事はもちろんのこと季節感のある工作の作成や手作りのおやつ作り、普段の食事とは違った食レク等を行事に取り入れています。広い屋上に物干し場があり洗濯物干しを行い天気の良い日は日光浴をします。時には屋上にテーブルを出しランチやおやつパーティを行うこともあります。合同レクでは誕生日会、初詣、川崎大師参拝、運動会、ハロウィン、クリスマスパーティ他、職員共々一緒に楽しめるよう心掛け行っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年2月27日	評価機関 評価決定日	令和8年4月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

京浜急行大師線「小島新田」駅より徒歩8分の木造3階建ての建物で、2ユニット18名の生活を支えています。1階に地域交流スペースを配し、2・3階を居住フロアとして運営しています。隣接する系列事業所とは日常的に交流を図り、協力体制を築いています。

<優れている点>

「笑顔の提供」を理念に掲げ、利用者の笑顔に満ちた生活空間を作るよう努めています。家族がいつでも来所して和やかに過ごせる場となるよう環境を整えるとともに、地域出身の利用者や職員が多い特性を活かした地域密着の運営を実践しています。職員は自発的にケアに取り組み、誕生日のレクリエーションなどを通じて個別の支援を充実させています。毎年「夏祭り」を隣接するグループホームと共催し、多彩な屋台を設営して地域住民や家族と共に楽しむ機会を設けているほか、夏には屋上に地域の人々を招待し、多摩川の花火を鑑賞しています。食事は、こだわりの新潟県産ブランド米を使用しています。毎食、職員が心を込めて調理することで、リビングに食欲をそそる香りが漂う中、出来立ての料理を提供しています。

<工夫点>

法人内で「初任者研修」の資格を取得できる体制を整え、「認知症介護実践者研修」の受講も奨励しています。受講費用の支援などを通じて、職員の専門性向上を後押ししています。また、増員している外国人職員に対しても、介護知識や支援スキルの習得とともに、日々のOJTを通じて日本語教育を継続的に実施しています。こうした日々の関わりにより、現在は外国人職員を利用者が慕い、互いに信頼関係を築きながら日々のケアに取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームみよの
ユニット名	みよの2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「利用者の笑顔のため」スタッフ全員で理念を共有し実践に繋がれよう心掛けています。 外国人スタッフ用にフリガナをふったものも準備し理解をしてもらっています。	「笑顔の提供」を理念に掲げ、利用者と共に笑顔に満ちた生活空間を作るよう努めています。家族にとっても「介護施設」という枠組みを超え、いつでも気軽に立ち寄って和やかに過ごせる場所となるよう環境を整えています。利用者・職員共に地元の人が多く、顔なじみの安心感の中で、散歩などを通じた地域との交流を支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事「公園の草むしり、盆踊り大会、廃品回収他、利用者様と参加する地域とのコミュニケーションを大事にしています。近隣の江川幼稚園とも仲良くしお祭り用のテントを借りる等、協力してもらっています。	「夏祭り」は隣接するグループホームと共催し、1階の地域交流スペースに焼きそばやかき氷などの屋台を設営して、家族や地域住民が交流できる場を設けています。氏神様の祭りや公園の草むしりなどを通じて地域とのつながりを深めており、地域住民による楽器演奏などのボランティア活動を受け入れています。夏の多摩川花火大会では屋上を開放し、地域の方々と共に鑑賞する機会を作っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームの行事に参加いただいたり見学していただいたことで地域の方にも認知症の方の理解をしていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月で開催をしている会議では地域とのかかわり、職員研修、行事企画等を計画し意見交換を行い交流を深めよりよいサービスの向上にいかしています	家族や地域包括支援センター、民生委員、協力医療機関の看護師などが参加する運営推進会議を隔月で実施しています。年間の半分は隣接する事業所と共催し、情報の共有を図っています。また、日頃から地域とのつながりを大切にしており、川崎大師参拝の際に駐車場の利用について便宜を図ってもらうなど、円滑な外出支援に向けた協力関係を築いています。	運営推進会議をより地域に開かれた場とするため、自治会長など地域住民の参加を得られるよう、働きかけの時期や方法について検討を重ねていくことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	キャラバンメイトの参加、認知症サポーター開催のお手伝い、地域包括との意見交換会等、積極的に参加しております。	川崎区大師支所の担当者とは、運営推進会議の報告や介護保険の申請代行を通じて連携しています。また、区生活支援課とは利用者の紹介や生活状況の報告などで情報を共有し、適切な支援につなげています。あわせて、神奈川県グループホーム連絡会に加入し、認知症ケアをはじめとする各種研修会へ参加することで、ケアの質の向上を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束、虐待防止委員会による定期的な研修を行い意見を交換しています。また身体拘束があった場合は話し合い、よりよい方法で対応するようにしています。	「身体拘束適正化委員会」を法人内4事業所合同で設置し、3ヶ月ごとに開催して身体拘束をしないケアに取り組んでいます。職員研修では動画を活用し、具体的な事例を通して学びを深め、日々のケアに活かしています。外国人職員に対しても、先輩職員がOJTを通じて直接指導を行い、身体拘束をしないケアの実践に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	マニュアルを作成し防止策に努めています。職員全体の理解を深められるよう社内研修を開催しています。気になる事があった時には常に運営会議ミーティングで話し合い防止に努めています。	虐待防止委員会を年3回開催し、動画を主体とした職員研修を実施しています。夜勤担当者に対しては、夜勤明けの時間を活用して動画を視聴し自身のケアを振り返る機会を設けるなど、勤務形態に合わせた研鑽を支援しています。また、毎月の外国人ミーティングや夜勤者ミーティングでの話し合いを通じて、適切な声かけの仕方を共有し、職員のストレス軽減と介護技術の向上に取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護が必要とされる背景や権利侵害が行われている場合の必要については職員間で速やかに共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、ご家族様の不安や疑問にお応えできるよう十分な説明をし理解した上でサービスの提供が行われているよう心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や来訪時、家族とコミュニケーションを取るようしています。近況報告をする際、意見や要望等を気兼ねなく言ってもらえる雰囲気を作るよう心掛けています。意見や要望はフォーミュラ等で共有しサービスの向上に努めています。	感染症対策に伴う面会制限下においても、家族からの要望を真摯に受け止め、ガラス越し面会を実施するなど可能な限りの対応に努めてきました。現在は、川崎市の感染予防注意報の基準を面会の基準とし、客観的な指標に基づいた対応を行っています。面会場所については、居室やリビングを避け、1階の地域交流スペースを活用することで、安全確保と家族の意向に沿った面会機会の両立を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、開催される運営会議において各ユニットのミーティングで上がった議題（意見や提案等）報告または相談できる場を設けています。また会議議事録を情報共有しています。	法人のグループホーム責任者が統括し、毎月の運営会議での対話を通じて職員の提案を運営に反映させています。具体的には、通気性の良いユニフォームへの刷新や、食材業者への要望集約、お米を新潟県産ブランド米へ変更するなど、現場の声を活かした環境改善を重ねています。また、フロアリーダーにおやつ予算の権限を委譲することで、各現場の職員が利用者の嗜好に応じた品を自ら選ぶ体制を整えています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休の受け入れ、家庭の状況に合わせた勤務体制を取っており働きやすい環境に努めています。職位、資格に合わせて給与額が設定されており、やりがいを持って働ける環境が整備されています。	職員の勤務シフトは、法人内4事業所の管理者とフロアリーダーが現場の声を尊重して協議し、決定しています。欠員時などは事業所間で応援し合う体制を整えており、時間外労働はごくわずかに抑えています。外国人職員による約1ヶ月の長期休暇取得に際しても、現場での調整や相互の協力を通じてローテーションを維持し、職員が休暇を取得できる環境の整備に努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には介護の基礎から利用者様への関わりについて丁寧な指導を実施しています。社内研修はシフトに組み入れ多く参加できるよう工夫をしています。「実践者研修」他、外部研修に関しても積極的に参加できるような環境が整っています。	年間研修計画に基づき、ケアマネジャーが講師を務める職員研修を毎月実施し、個々のスキルの向上を図っています。法人内で「初任者研修」の資格取得ができる体制を整えているほか、「認知症介護実践者研修」の受講も奨励しています。研修日は出勤扱いとし、受講費用も全額事業所で負担するなど、学びやすい環境を整備しています。新入職員に対しては6ヶ月間のカリキュラムによる研修を実施し、外国人職員へは日常のOJTを通じて日本語教育や技術指導を行っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市の開催するキャラバンメイト連絡会や社会福祉協議会等の開催行事に積極的に参加することで同業者のネットワークを作り交流を深めサービスに役立てています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階でご本人様の困っていること、求めていること、要望などを傾聴し、受け入れられるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始にあたり、ご家族が現在抱えている不安や悩み、考えや思いを持っているか等を理解し、どのように支援していけるかを共に考えていけるよう関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様、ご家族様のお話を伺い必要なことを見極めていきます。必要があればマッサージ他、多職種のサービスも取り入れ支援できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様に寄り添い得意分野(食器拭き、洗濯物干し、たたみ、モップ掛け、新聞たたみ、ゴミ箱作り他)を探りながら毎日の生活の中で活かせるよう配慮をしながら共に生活を送る良い関係を構築しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	広報新聞やハガキで日々の様子を伝え、来訪時や電話で体調面等をお話するようにしています。ホームでの困りごと等、常に共有し一緒に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所時の面接からご本人様の趣味や出身地、生活リズムをお聞きし支援に役立てられるよう努めております。ご家族様にも協力していただきご本人様の思い入れのあるものをお部屋に飾るようにしています。	地元出身の利用者や職員が多く、互いに顔なじみの関係にあるなど、地域との自然なつながりを保っています。こうした環境を活かし、散歩の折に馴染みのある自宅付近まで足を延ばすといった、利用者の安心感やこれまでの生活環境を尊重した支援を行っています。また、季節の花見や「海ほたる」へのドライブなど、外出を通じて社会との接点を持ち続ける機会を大切にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性やADLに合わせる等状況に応じて席を配置しています。職員も席へ座り会話を待つようにしています。2.3階合同のレクリエーションを定期的に行い利用者様同士の交流の場を作るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した後は、こちらからの積極的なフォローはしておりませんが相談があった場合は丁寧かつ親身に対応させていただいております。入院されている方のお見舞いに行くこともあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に「どうしたいのか？何を求めているのか？」という事を考えた支援を心掛け、困難な場合は日々のかかわりの中で性格、言動や表情などから気持ちを汲み取り把握するように取り組んでいます。常に職員で話し合い気付いたことを意見交換しています。	家族から得た情報や日々の観察、会話を通じて、利用者一人ひとりの「できること」や潜在的な能力の把握に努めています。例えば、利用者の特技を活かした「書道クラブ」や「ネイルクラブ」を立ち上げるなど、把握した意向を「役割」や「楽しみ」として支援に反映させています。外国人職員も、笑顔での傾聴を基本とした関わりを大切にすることで、日常の何気ないやり取りの中から利用者の細かな思いを汲み取るよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様から生活歴、環境、仕事等小さなことでも情報を伺うことにより全体像を把握し日常生活に近い支援を取り入れています。職員間で共有し、その人らしい生活が出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしい暮らし方、生活のリズムを把握するようにしています。心身状態を見ながら持っている力を出し張り合いのある生活ができるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	随時フロアミーティングを行いケアの内容について意見交換を行っています。定期的ご家族様へ連絡し意向や思いを伺い、医療往診時には常に相談し介護計画に反映させるようにしています。	入居時の情報に加えて本人や家族から聞き取りを行い、それらを基に暫定的な介護計画を作成しています。毎月実施するカンファレンスでは利用者の状況変化をチームで共有し、必要に応じて随時計画の見直しを行うことで、常に実態に即した支援につなげています。モニタリングは3ヶ月ごとに行い、6ヶ月の短期計画や1年の長期計画の進捗を確認・評価することで、継続的なケアの質の向上を図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の体調管理、身体状況については生活記録及び個人記録に記録しています。フロアミーティングにおいても気づきや日常の変化他、小さなことでも職員で情報を共有し介護記録の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じて通院や送迎等に、対応しています。既存のサービスに捉われないよう必要な支援は柔軟な対応が出来るよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	常に近隣へ買い物、散歩、町内会のお祭り、川崎大師参拝、等、外へ出る事への楽しみを計画しています。訪問美容によるカット、マッサージ施術、ボランティア他、暮らしの中にならぬ地域と密着していけるよう支援しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回提携医療機関による定期往診があり24時間体制、緊急時対応など適切な医療を受けられる体制が整っております。ご本人さま、家族の希望があれば地域のかかりつけ医に受診が出来るよう柔軟に対応しております。	利用者はかかりつけ医を自由に選択できますが、現在は全員が提携医療機関をかかりつけ医としています。事業所の看護師が週に2日から3日勤務し、日々の健康管理を行っています。往診の前日には利用者の状況をあらかじめFAXで共有し、当日も診療に立ち会うことで、医師と正確な情報交換を行い適切な医療を受けることができるよう支援しています。また、必要に応じて眼科や整形外科といった専門医の受診にも同行し、円滑な受診をサポートしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の各測定（バイタル、体温、Spo2）往診ノートを活用し体調を常に把握しています。変化に気付いた時には訪問看護へ連絡し適切な医療に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携し早期治療に努めています。情報共有やカンファレンスの場を設け、退院後の生活の安定を図りながら早期に退院できるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様や、ご家族の意向を踏まえ医療関係者と連携を図り取り組んでいます。状況に応じて意志を確認し安心、納得した最期が迎えられるよう支援に取り組んでいます。	入居時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する方針」を説明し、同意書を交わしています。医師が看取りの時期であると判断した後は、医師、看護師、家族、事業所間で話し合いを行い、今後の方針を共有しています。また、事業所の看護師による看取り研修を実施するなど職員の知識・技術の向上を図り、多職種が連携してできる限りの必要な支援を行う体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルがあり職員全員が周知するように取り組んでいます。「心配蘇生、応急手当等」定期的に行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練の他、職員の消火器訓練、夜間想定訓練、避難誘導訓練を行っています。非常食、飲料は3Fに備蓄しています。	年2回の避難訓練に加え、BCP（事業継続計画）の机上訓練を実施しています。避難訓練には消防署の立ち会いのもと、避難経路や場所の確認、消火器の取り扱いなどについて具体的な指導を受けています。設備面ではキャタピラー階段昇降機を配備し、緊急時の迅速な避難に活用できる体制を整えています。また、飲料水、ご飯類、麺類、栄養ゼリーなどの備蓄品リストを作成し、計画的な管理を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に自尊心を傷つけないように心掛け、言葉掛けや対応に配慮をしています。言葉遣いにも気を付け優しく笑顔での挨拶を心掛けています。	日々の接遇において遵守すべき事項をまとめた「利用者様への関わり方」を掲示し、申し送り時の唱和を通じて職員間の意識共有を図っています。多くの外国籍職員が在籍していることから、漢字にはルビを振るなどの工夫を行い、内容の理解と実践を支えています。支援にあたっては、事業所の都合で時間や行動を制約しないことや、笑顔で優しい言葉かけをすることを大切に、利用者一人ひとりの人格を尊重したケアに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段の会話や表情などから自己決定できるよう働き掛け家庭的な暮らしが出来るよう支援しています。希望を発信しやすい環境作りに配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り一人ひとりのペースに合わせ支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的カットを行い髪型はご本人様の希望を取り入れています。その人らしさを保てるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	おやつ作りや盛り付け、後片付け等、一緒に行っています。	食事は業者から届く食材を活用し、事業所内で手作りして提供しています。特にお米にはこだわり、新潟県産の銘柄米を取り寄せています。また、利用者が野菜の切り分けや盛り付け、食後の食器拭きなどを手伝うことで、日々の生活の中で役割を持てるよう支援しています。おせち料理やまぐろの解体ショーといった季節感のある行事食に加え、たこ焼きやクレープ、どら焼きなどを一緒に作るおやつ作りの機会を設け、食事を通じた楽しみを共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態にあった食事形態で提供しています。カロリー不足を意識(定期的な検査) 水分量を確実に確認もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛けにて口腔ケアを促しています。 自力で出来ない利用者様には洗面台へ誘導し介助するようにしています。 また毎日、昼食前に口腔体操を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを掴み共有しています。	排泄記録や日々の行動観察に基づき、一人ひとりに合わせた適切なタイミングで職員がトイレへの誘導を行っています。夜間におむつを使用している利用者であっても、日中はリハビリパンツで過ごし、適時の声かけによってトイレでの排泄を促しています。また、夜間の尿量が多い利用者を把握し、細やかな誘導を行うことで、可能な限り利用者がトイレでの排泄が継続できるよう個別の支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品や植物繊維を取り入れるよう工夫しています。体操や散歩、運動レクを行うように取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	決まった入浴日はありますが、ご本人様の体調や気分が乗らない時など希望に応じて変更しています。入浴後の洋服も一緒に決めるようにしています。	室温や湯温の調節、転倒防止マットや手すりの活用により、安全で快適に入浴できる環境を整えています。車いすを使用する利用者に対しても、リフト浴を導入することで、肩まで浸かってしっかりと温まれるよう支援しています。また、入浴に消極的な利用者に対しては、声のかけ方や声かけの時間、曜日を変更するなど個別の働きかけを行い、無理なく入浴を楽しめるような柔軟な対応を心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活パターンを把握し、日中散歩等、体を動かすように心掛けています。不安で起きてしまい眠れない方はフロアで過ごしてもらう等、安心して過ごせる支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方に関する情報はファイルし変更時は医療ノート、送りノートへ記入しスタッフ全員が周知できるよう徹底しています。服薬セットは必ず2名で行い、服薬時はスタッフ間の声掛け読み上げ確認を行い間違いのないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとり、その人が出来る事を探しています。生活の中で役割を持ってもらい張りのある生活を送ってもらうよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	事前に計画し外出できるようにしています。外出できる機会を増やすようにしています。ご家族様にも協力をしてもらい連携を取っています。	身体機能の維持と気分転換を兼ねて、車いすを利用する利用者も一緒に近隣を散歩しています。多摩川の土手へ桜見物に足を運ぶほか、初詣には水神社や川崎大師を訪れるなど、季節ごとの行事を通じた外出機会を設けています。また、屋上で外気浴をしたり、職員と一緒に洗濯物を干したりする時間を大切にしているほか、地域の障害者施設が運営するレストランへ全員で食事に出かけることもあり、社会との交流を継続しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様からお預かりし管理をしています。買い物の希望がある場合は購入できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様と連携し、ご本人様の希望に沿い、いつでもやりとりが出来るよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾り付けは利用者様と一緒にを行っています。行事があった時には写真を撮り、広報新聞へ載せたりフロアへ貼りだし会話が弾むような工夫をしています。	共用の空間は、温度管理や換気、日々の清掃を欠かさず、清潔で良好な環境を維持しています。また、近隣住民がボランティアで楽器演奏に訪れたり、屋上での花火見物の際に地域の人を招いたり、近所との交流の場としても活用しています。近隣の子ども文化センターから子どもたちが来訪しハンドベルを披露するなど、多世代との触れ合いを通じて、利用者が日々の暮らしを楽しく過ごせるような環境づくりを進めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにソファを配置しリラックスした雰囲気を作っています。時には席を変えすることもあります。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人様の使い慣れたものや使用していたものを用意して心地よく生活して安心してもらうよう常に考えるようにしています。	居室ごとに担当を決め、清掃や換気、温度管理などの細やかな支援を行っています。掃除を利用者と一緒に行うこともあり、自立した生活の継続を支えています。居室には、使い慣れたタンスやテレビ、家族の写真など、馴染みのある品々を持ち込むことで、本人が心落ち着ける空間となるよう配慮しています。また、趣味の道具を持ち込み作品を贈るなど、居室が個々の趣味や創作の場としても機能し、自分らしく過ごせる環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人1人に合わせ出来ること出来ないことを探して話し合い自立支援を行いながら無理なく行えるよう支援しています。		

事業所名	グループホームみよの
ユニット名	みよの3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「利用者の笑顔のため」スタッフ全員で理念を共有し実践に繋がれよう心掛けています。 外国人スタッフ用にフリガナをふったものも準備し理解をしてもらっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事「公園の草むしり、盆踊り大会、廃品回収他、利用者様と参加する地域とのコミュニケーションを大事にしています。近隣の江川幼稚園とも仲良くお祭り用のテントを借りる等、協力してもらっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームの行事に参加いただいたり見学していただいたことで地域の方にも認知症の方の理解をしていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月で開催をしている会議では地域とのかかわり、職員研修、行事企画等を計画し意見交換を行い交流を深めよりよいサービスの向上にいかしています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	キャラバンメイトの参加、認知症サポーター開催のお手伝い、地域包括との意見交換会等、積極的に参加しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束、虐待防止委員会による定期的な研修を行い意見を交換しています。また身体拘束があった場合は話し合い、よりよい方法で対応するようにしています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	マニュアルを作成し防止策に努めています。職員全体の理解を深められるよう社内研修を開催しています。気になる事があった時には常に運営会議ミーティングで話し合い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護が必要とされる背景や権利侵害が行われている場合の必要については職員間で速やかに共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、ご家族様の不安や疑問にお応えできるよう十分な説明をし理解した上でサービスの提供が行われているよう心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や来訪時、家族とコミュニケーションを取るようにしています。近況報告をする際、意見や要望等を気兼ねなく言ってもらえる雰囲気を作るよう心掛けています。意見や要望はフォーミュラ等で共有しサービスの向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、開催される運営会議において各ユニットのミーティングで上がった議題（意見や提案等）報告または相談できる場を設けています。また会議議事録を情報共有しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休の受け入れ、家庭の状況に合わせた勤務体制を取っており働きやすい環境に努めています。職位、資格に合わせて給与額が設定されており、やりがいを持って働ける環境が整備されています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には介護の基礎から利用者様への関わりについて丁寧な指導を実施しています。社内研修はシフトに組み入れ多く参加できるよう工夫をしています。「実践者研修」他、外部研修に関しても積極的に参加できるような環境が整っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市の開催するキャラバンメイト連絡会や社会福祉協議会等の開催行事に積極的に参加することで同業者のネットワークを作り交流を深めサービスに役立てています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階でご本人様の困っていること、求めていること、要望などを傾聴し、受け入れられるような関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始にあたり、ご家族が現在抱えている不安や悩み、考えや思いを持っているか等を理解し、どのように支援していけるかを共に考えていけるよう関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様、ご家族様のお話を伺い必要なことを見極めていきます。必要があればマッサージや散歩等、多職種のサービスも取り入れる等、柔軟に対応できる支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様に寄り添い得意分野(食事作り、盛り付け、食器拭き、洗濯物干し、たたみ、掃除、新聞たたみ、貼り絵等の制作他)を探りながら毎日の生活の中で活かせるよう配慮をしながら共に生活を送る良い関係を構築しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月作成する広報新聞やハガキで日々の様子を伝え、来訪時や電話で体調面等をお話するようにしています。ホームでの困りごと等、常に共有し一緒に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所時の面接からご本人様の趣味や出身地、生活リズムをお聞きし支援に役立てられるよう努めております。ご家族様にも協力していただきご本人様の思い出のあるものをお部屋に飾るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性やADLに合わせる等状況に応じて席を配置しています。職員も席へ座り会話を持つようにしています。2.3階合同のレクリエーションを定期的に行い利用者様同士の交流の場を作るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した後は、こちらからの積極的なフォローはしておりませんが相談があった場合は丁寧かつ親身に対応させていただいております。入院されている方のお見舞いに行くこともあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に「どうしたいのか？何を求めているのか？」という事を考えた支援を心掛け、困難な場合は日々のかかわりの中で性格、言動や表情などから気持ちを汲み取り把握するように取り組んでいます。常に職員で話し合い気付いたことを意見交換しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様から生活歴、環境、仕事等小さなことでも情報を伺うことにより全体像を把握し日常生活に近い支援を取り入れています。職員間で共有し、その人らしい生活が出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしい暮らし方、生活のリズムを把握するようにしています。心身状態を見ながら持っている力を出し張り合いのある生活ができるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	随時フロアミーティングを行いケアの内容について意見交換を行っています。定期的ご家族様へ連絡し意向や思いを伺い、医療往診時には常に相談し介護計画に反映させるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の体調管理、身体状況については生活記録及び個人記録に記録しています。フロアミーティングにおいても気づきや日常の変化他、小さなことでも職員で情報を共有し介護記録の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じて通院や送迎等に、対応しています。既存のサービスに捉われないよう必要な支援は柔軟な対応が出来るよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	常に近隣へ買い物、散歩 町内会のお祭り、川崎大師参拝、等、外へ出る事への楽しみを計画しています。訪問美容によるカット、マッサージ施術、ボランティア他、暮らしの中にあわず地域と密着していけるよう支援しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回提携医療機関による定期往診があり24時間体制、緊急時対応など適切な医療を受けられる体制が整っております。ご本人さま、家族の希望があれば地域のかかりつけ医に受診が出来るよう柔軟に対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の各測定（バイタル、体温、Spo2）往診ノートを活用し体調を常に把握しています。変化に気付いた時には訪問看護へ連絡し適切な医療に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携し早期治療に努めています。情報共有やカンファレンスの場を設け、退院後の生活の安定を図りながら早期に退院できるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様や、ご家族の意向を踏まえ医療関係者と連携を図り取り組んでいます。状況に応じて意志を確認し安心、納得した最期が迎えられるよう支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変や事故発生時のマニュアルがあり職員全員が周知するように取り組んでいます。「心配蘇生、応急手当等」定期的に行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練の他、職員の消火器訓練、夜間想定訓練、避難誘導訓練を行っています。非常食、飲料は3Fに備蓄しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に自尊心を傷つけないように心掛け、言葉掛けや対応に配慮をしています。言葉遣いにも気を付け優しく笑顔での挨拶を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段の会話や表情などから自己決定できるよう働き掛け家庭的な暮らしが出来るよう支援しています。希望を発信しやすい環境作りに配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り一人ひとりのペースに合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的にかットを行い髪型はご本人様の希望を取り入れています。その人らしさを保てるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	おやつ作りや盛り付け、後片付け等、一緒に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態にあった食事形態で提供しています。カロリー不足を意識(定期的な検査) 水分量を確実に確認もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛けにて口腔ケアを促しています。 自力で出来ない利用者様には洗面台へ誘導し介助するようにしています。 また毎日、昼食前に口腔体操を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを掴み共有しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品や植物繊維を取り入れるよう工夫しています。体操や散歩、運動レクを行うように取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	決まった入浴日はありますが、ご本人様の体調や気分が乗らない時など希望に応じて変更しています。入浴後の洋服も一緒に決めるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活パターンを把握し、日中散歩等、体を動かすように心掛けています。不安で起きてしまい眠れない方はフロアで過ごしてもらう等、安心して過ごせる支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方に関する情報はファイルし変更時は医療ノート、送りノートへ記入しスタッフ全員が周知できるよう徹底しています。服薬セットは必ず2名で行い、服薬時はスタッフ間の声掛け読み上げ確認を行い間違いのないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとり、その人が出来る事を探しています。生活の中で役割を持ってもらい張りのある生活を送ってもらうよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	事前に計画し外出できるようにしています。外出できる機会を増やすようにしています。ご家族様にも協力をしてもらい連携を取っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様からお預かりし管理をしています。買い物の希望がある場合は購入できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様と連携し、ご本人様の希望に沿い、いつでもやりとりが出来るよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾り付けは利用者様と一緒にを行っています。行事があった時には写真を撮り、広報新聞へ載せたりフロアへ貼りだし会話が弾むような工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにソファを配置しリラックスした雰囲気を作っています。時には席を変えることもあります。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人様の使い慣れたものや使用していたものを用意して心地よく生活して安心してもらおうよう常に考えるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人1人に合わせ出来ること出来ないことを探して話合い自立支援を行いながら無理なく行えるよう支援しています。		

令和7年度

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみよの

作成日 令和8年4月30日

優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成期間
1	11	外国職員の増加について	ベトナム、フィリピン、カンボジアの職員が和を保ち介護業務を行う	外国人ミーティングを月に1回実施して相互理解を深める、日本人職員による日本語教育を行う	12ヵ月
2	4	運営推進会議を充実させる	包括支援センターや往診医療機関の参加やご家族様の参加を多くし、常に新しい参加者が参加しやすいようにする	事前に各機関に予定表や議題を通知して余裕を持って調整し、当日を迎えるようにする。意見が出やすい環境を整える	12ヵ月
3	33	利用者様のお看取り対応の向上について	利用者様とご家族様に悔いのないご満足頂けるお看取りをしっかり行う	往診医療機関との連携を強化し、ご家族様のお気持ちに沿ったお看取りとなる様にすべての環境を整え、職員研修を充実させて理解を深める	6か月
4	22	ホーム全体の清掃・衛生管理について	外国人職員を含む全ての職員が清掃の必要性を理解し、作業手順を身につける	清掃研修を実施して、ホーム内の各箇所の清掃手順を確認し、全職員が同じレベルで清掃や衛生管理ができるようにする	3か月
5	10	他施設との交流を行う	他の施設の良い点を見つけ取り入れること、自分の施設のやり方に固執しないこと	自社の4施設の交流を積極的に行うとともに、他のグループホーム見学を行うことで柔軟により良い方法を取り入れる	3か月